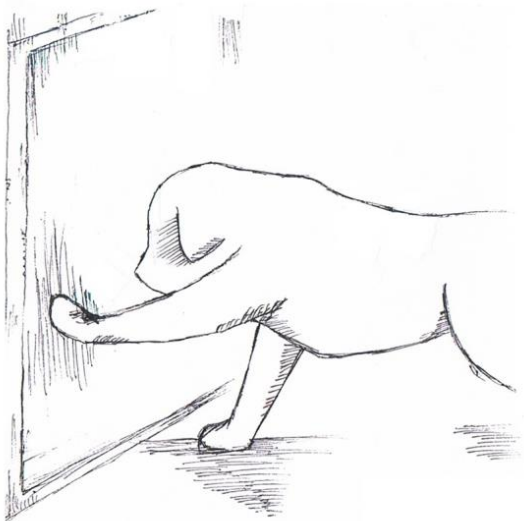


ボクが中へ入ると扉はしめられてしましました。



ここは  
来たことのないところ。



あなたは知らないおじ  
さんにボクのリードを渡し  
ました。

おるすばんかな…

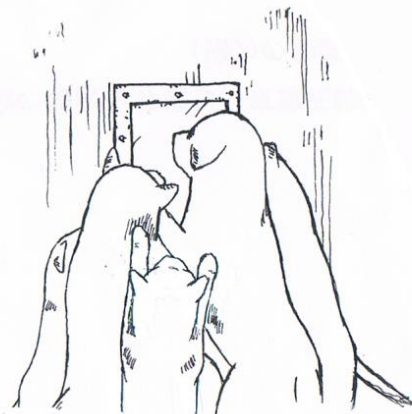
でもあなたはいつもと少しちが  
いました。何も言わずにボク  
の顔を見て、少し悲しそうな  
顔をしていました。

大丈夫だよ。

ボクはいい子にまってるから。

しばらくすると、なんだか息が苦  
しくなってきました。

ボク達は部屋の奥に小さな窓を見  
つけ、そこから外をのぞきました。



ボクはあなたのとなりを  
歩きました。

ふたりで歩く道。

ボクはぜんぶおぼえているよ。

あなたがおしえてくれた

たんぽぽの道。

一緒に遊んだ公園。



何回か夜がきて。

何回か朝がきて。

おじさんはボクを呼びました。

いつものように

「よしよし、いい子だな」って  
ボクの頭をなでて。

そして

今日はボクのことをぎゅっと  
抱きしめてくれました。



おじさんはボクを連れて  
べつの部屋へ行きました。

そこにはおともだちがたくさん  
いました。



でも、おじさんは夜になるといなく  
なってしまうて。

ボクは冷たい床にひとりで寝ました。  
悲しい声がいっぱい聞こえてきて…  
ボクも少し寂しくなりました。



でも、すぐにあなたがむかえに来て  
くれるから。だから、大丈夫。